

平成29年3月
田川郡教育研究所
所長 平野 志津夫

研究紀要「第56集」の発刊にあたって

田川郡教育研究所では、研究主題を「学習指導と評価に関する研究 ～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～」と定め、6年次を迎えました。本年度も各教科等部会より貴重な実践事例をご提出いただき、研究紀要「第56集」を発刊する運びとなりました。各学校で、今後の教育活動に活用していただければ幸いです。

田川郡の各小・中学校ではさまざまな形で確かな学力の定着と向上に取り組んでいますが、同時に今学校には、激しく変化する時代や社会を生きる子どもたちに次期学習指導要領の視点や方向性を踏まえ、着実な準備と力量の向上を図ることが求められています。

これからの時代、子どもたちには「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」などの資質・能力を育み、教師には「習得・活用・探求という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているか」「他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているか」「子どもたちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているか」などの視点に立った授業の展開が望まれます。

当研究所におきましても、教職員の参考になる実践事例や資料等の収集と紹介に努めますとともに、教育関係機関との連携を図りながら各事業内容の充実に努め、組織的・計画的に、そして効果的でより実践的な研修の実施に取り組んで参ります。

最後になりましたが、当研究所の事業の推進に対しまして、日頃よりご支援とご協力を賜りました田川郡町村会並びに田川郡地教委連絡協議会、福岡県教育庁筑豊教育事務所、田川郡小・中学校校長会並びに教頭会の皆様に衷心より感謝申し上げます。

また、本研究紀要発刊にあたり、ご執筆いただきました研究員並びに実践に取り組まれた先生方、そして、ご指導いただきました各部担当の校長先生、教頭先生方にお礼を申し上げますとともに、皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたします。